

### 3 小倉南区

#### 3-1 地域の概況と課題

##### (1) 小倉南区の概況

###### ① まちの成り立ち、自然状況

- ・本市南東部に位置する小倉南区は市域面積の約35%を占め、区内の北部から東部にかけて市街地が形成され、その周囲には自然・田園ゾーンが形成されており、農業が盛んです。
- ・小倉区の分区により小倉南区として発足した昭和49年頃からベッドタウンの形成が進み、小倉モノレール及びJR日豊本線の沿線を主体に住宅地が拡大して、多くの人口を受け入れてきました。
- ・区内には、国指定の天然記念物・平尾台をはじめ、貫山、福智山などの山系、紫川、竹馬川、志井川、貫川、ます淵ダムや昭和池などの水系や曽根干潟、長野緑地などが分布して、自然環境豊かな観光・レクリエーションの空間を市民に提供しています。
- ・水系資源が多い一方で、過去には大規模な台風などによる高潮被害にも見舞われてきました。
- ・北九州空港の開港や東九州自動車道の開通などにより、自動車産業等の新しい産業の立地が進みつつあります。
- ・昭和40年代から開発が進められた大規模団地であるUR徳力・志徳団地では、高齢化等への対応として、地域医療福祉拠点の形成を進めています。

###### ② 生活圏、交通の状況

- ・小倉南区の日常生活圏<sup>※</sup>は、モノレール小倉線に沿った地域拠点としての城野地区、徳力・守恒地区と、JR日豊本線沿いの地域拠点としての下曽根・葛原地区を中心とする概ね3つの圏域に分類されます。  
※日常生活圏とは、買い物・通勤・通院などで行動する範囲
- ・広域道路網としては、九州自動車道が東西に走り、門司・本州方面や福岡方面と連絡しています。また、南北方向には、東九州自動車道及び国道10号により行橋・大分方面と、国道322号により筑豊方面と連絡し、これら東西、南北の連絡する広域道路網の結節点となっています。市中心部の小倉都心地区とは都市高速道路や国道10号等で連絡しています。
- ・公共交通としては、地域拠点の城野地区を合流点として、モノレール小倉線及びJR日豊本線、JR日田彦山線が接続しており、徳力・守恒地区や下曽根地区間を連絡する鉄道網を形成しています。また、これらの鉄道網と連携して路線バス網が形成されています。さらに、区東部沖に海上空港として北九州空港が整備され、小倉都心部等からの路線バス網で連絡されています。
- ・物流拠点が集積する門司区から自動車関連企業などが集まる小倉南区・京築方面への物流機能の強化とともに、北九州空港とのアクセス強化のため、都市計画道路6号線の整備を進めています。
- ・また、合馬・道原地区や平尾台地区では、おでかけ交通の運行が行われています。

###### ③ 人口動向・構成

- ・人口は、平成27年現在21.3万人で、全市の22.1%を占めています。
- ・増加を続けてきた人口も、平成22年から5年間では0.9%の減少となり、平成52年には18.7万人まで減少すると予想されています。
- ・高齢化率は26.2%で全市平均(28.8%)より少し低い状況ですが、平成52年には36.0%まで増加すると予想されています。
- ・可住地の人口密度は27.8人/haと全市平均(32.5人/ha)よりも少し低くなっています。

	H22人口※	H27人口※				H27 高齢化率(%)	H27/H22	
		総数	15歳未満人口	15～64歳人口	65歳以上人口		人口増減数	人口増減率(%)
北九州市	976,846	961,286	119,448	549,397	277,120	28.8%	-15,560	-1.59
北九州市 小倉南区	214,793	212,850	29,924	126,427	55,703	26.2%	-1,943	-0.90
	面積(ha)	可住地面積(ha)	H27可住地 人口密度	H27 世帯数	H27 1世帯あたり人			
北九州市	49,195	29,609	32.47	426,325	2.25			
北九州市 小倉南区	17,174	7,653	27.81	88,497	2.41			
	H52将来人口							
	総数	15歳未満人口	15～64歳人口	65歳以上人口	高齢化率(%)			
北九州市	784,162	79,211	409,013	295,938	37.7%			
北九州市 小倉南区	186,953	20,835	98,890	67,228	36.0%			

※H22・H27 人口：国勢調査  
 ※H52 将来人口：  
 国立社会保障・人口問題研究所  
 『日本の地域別将来推計人口  
 (平成 25 年3月推計)』による推計値

#### ④土地利用

- ・モノレール小倉線やJR日豊本線等の鉄道沿線に市街地が形成され、区面積の約18%が市街化区域となっています。その周辺部の市街化調整区域には農地が広がっており、都市近郊型農業としてのブランド化(合馬地区のタケノコ等)が行われています。
- ・各地域拠点の鉄道駅周辺に商業地が形成されており、また文化施設や医療施設等も鉄道等に沿って区内に広く分布しています。
- ・北九州空港の開港や東九州自動車道の開通に伴って、北九州臨空産業団地、北九州空港跡地産業団地では、新たな産業立地が進んでいます。また、インターチェンジ周辺等では、内陸型工業団地等の形成が期待されます。

#### (2)小倉南区の特性とまちづくりの課題

##### ●広域交通結節点としての特性を活かした住みやすく活気のあるまちづくりの課題

- 子どもを生み育てやすい環境づくりをさらに進めるため、今後も商業、医療、保育などの生活支援施設の立地・集積を図るとともに、交通結節機能の強化などにより、更なる利便性・快適性の向上を図る必要があります。
- 公共交通の主要幹線軸である徳力・守恒、下曾根から小倉都心方面を結ぶ区間について、乗り継ぎ向上などの機能強化、利用促進が必要です。
- 鉄道駅周辺の渋滞緩和や交通環境改善のための道路整備が必要です。
- 本市の産業振興を強化するため、インターチェンジ周辺など交通利便性の高い地域において、内陸型の工業・物流系用地として計画的な利用を進める必要があります。
- 臨海部においては、津波や高潮等に対する防災・減災対策が必要です。

##### ●豊かな自然を活かした観光・レクリエーション拠点としてのまちづくりの課題

- 平尾台、福智山や曾根干潟などの豊かな自然環境とその裾野にある美しい里地・里山の田園風景を保全し、農業体験や環境学習の場などとして活用していくことが必要です。
- 平尾台自然の郷や鍾乳洞などの観光資源の価値を高め、広域観光拠点として、さらなる魅力アップに努める必要があります。

### 3-2 まちづくりの目標と方針

#### (1)まちづくりの目標

小倉南区の課題を踏まえて、区の将来像を描き、まちづくりの目標を定めます。

#### 【目標】

- ◆自然とふれあえるゆとりある居住空間の中で、安全に安心して便利に暮らせるまちをつくる
- ◆新たな産業を生みだし、交流の輪を広げ、元気と活力のあるまちをつくる
- ◆水や緑の豊かな自然を活かし、スポーツ・レクリエーションの場として、健康的で、安らぎと潤いのあるまちをつくる
- ◆豊かな自然や農業・漁業が守られ親しまれるまちをつくる

(2)まちづくりの方針

まちづくりを構成する主な分野ごとに方針を定めます。

●土地利用に関する方針

街なか居住の推進に向けて、多くの人々が便利で快適に暮らせる、安全で住みやすい市街地整備を進めていきます。

- ① 街なかにおいて、商業・業務系と住居系を中心とする土地の有効利用を進めます。
- ② 周辺市街地の生活環境を維持します。
- ③ 自然・田園ゾーンにおいて、里地・里山などの自然環境の保全・活用、既存集落の維持を図ります。
- ④ インターチェンジ周辺など交通利便性の高い地域では、工業・物流系用地として活用を進めます。

●交通に関する方針

他区や近隣市町村などとの連携強化、歩いて暮らせる市街地形成のため、幹線道路網の整備、身近な道路の整備、公共交通の充実や、空の玄関口にふさわしい交通基盤の充実を進めていきます。

- ① 他区との連携強化及び九州・東九州自動車道インターチェンジや北九州空港等の各拠点間のアクセス性向上に向けて、幹線道路網の整備を進めます。
- ② 歩行者・自転車の安全性や快適性を向上させるため、身近な道路の整備を進めます。
- ③ 公共交通軸を中心とした公共交通の充実による利便性の向上や利用促進を図ります。

●観光や美しい景観による魅力あるまちづくりに関する方針

豊かな地域資源及び都市基盤を活用し、ひと、モノ、情報が行き交う魅力あるまちづくりを進めていきます。

- ① 平尾台などの地域資源を活用したにぎわいのあるまちづくりを進めます。
- ② 自然、歴史、伝統文化、人々の力など地域の財産をもとに、地域住民、企業、行政の協働により、小倉南区の魅力を向上し、質の高いまちづくりを進めます。

●都市環境・自然的景観・公園緑地に関する方針

平尾台や曾根干潟等の既存の豊かな自然的環境を守り、観光・レクリエーション、環境学習の場として活用します。

●安全・安心なまちづくりに関する方針

犯罪・災害の発生を抑えるとともに、地域の強いコミュニティによって支えられる、誰もが安全・安心に暮らせるまちづくりを進めていきます。

- ① 臨海部における災害を想定した防災対策の充実を図ります。
- ② 公的住宅と医療・福祉施設を活用した地域医療福祉拠点化や子育てしやすいまちづくりを進めます。



3-3 目標とする都市の構造

